

2022年度 スタートに寄せて

新しい年度がスタートしました。入学・入園の子どもたちは、ドキドキしながらも新しい環境になじみ始めています。学年が一つずつ上がったWACCA塾の子どもたちも、ボランティアさんたちを見つけるや否や、日々の出来事を色々な表情を浮かべながら話しています。

私たちが活動している、ウィメンズネット・こうべも今年で30周年を迎えます。今までの活動の積み重ねを思い起こしながら、女性や子どもたちがのびやかに暮らしていける社会を目指して、30周年の記念事業も予定しています。今まで培ってきた精神やスキルを新しいスタッフへバトンタッチしていくことが目標です。

WACCAでも、今年度新しい事業を開始するなど、活動の充実を図っていきたいと思っています。一つには「あそび基地」のスタート。子どもたちが主役の遊びを通してつながれるスペースを確保しています。二つ目は相談の充実。シングルマザーたちの日頃のもやもやを相談できるWACCAふらっと相談、DVなどの暴力や孤立等生きづらさを抱えている女性たちが相談できるWACCAぷらす相談、そして昨年好評で予約がいっぱいだったオープンダイアログなど、様々な形で、お話を聴くことを充実させました。

こうして活動を広げられるのも、皆様の応援のおかげで新しいスペースづくりが実現できたからです。去年はハード面の充実を目標としていましたが、今年度はソフト面での充実を目指していきたいと思っています。

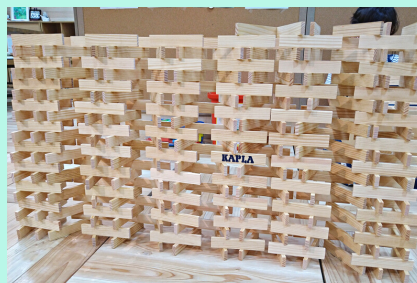
引き続き、皆様の応援をよろしくお願いいたします。

WACCA (わっか) 茂木 美知子

あそび基地 開催！



4月23日(土)、1回目の「あそび基地」を開催！当日は、大人4名、子ども6名が参加しました。人数は少なめだったけれど、みんなで愉しく遊びました。お母さんたちもお喋りを楽しみ、ゆったりして良い時間でした。



WACCA子ども基地 WACCA塾より

4月初め、もうすぐ入学式を迎える高1女子がやって来ました。もちろん私服でしたが、ちょっと合わない間に何だか大人びて、すっかりお姉さんになっていました。

数日経って新学期が始まり、今度は先日の高1女子が真新しい制服に身を包んで、WACCAにやってきました。皆とっても可愛かったです。ボランティアさんもとても喜んで迎えてくださいました。後輩たちが勉強しているのを眺めて「もうWACCAに来られへんのか……」とつぶやいたのを聞いて、嬉しいような、切ないような気分になりました。

みなさんの声

WACCAに来てくださっている
皆さんより感想をいただきました。

WACCAに通い始めて1年半。

アイロン掛けのボランティアから、引越しの手伝いもするようになって、「私でも、誰かの役に立っているんだ」と実感できるようになりました。

そして、ココ・サロンを担当して半年が過ぎました。子育て中のママさんたちは、お子さんの健康にはとても注意しているのに、自身の健康には無頓着な方がとても多いと気づきました。

あるいは、体調不良を感じていても、「そんな暇はない」「仕事を休めない」「医療費がもったいない」などの思いからか、「これくらいの事で病院を受診できないわ」と、独りで耐えている方も多く見受けられました。

私は、子育て経験がないため、子育てに関する現実的な悩みに返せる言葉はないのですが、傍にいる先輩ママさんが話を聴いてくださり、共感したり、助言をしたりする姿を見ていると、皆さんが生き生きとしているのが分きました。

今の社会制度は子育て中の女性に対して、金銭的な配慮が少ないとは思っていましたが、自分の健康を気遣ったり、子育ての苦労や愚痴を漏らすこともできないような環境になっていると思います。(Aさん)

そんな新年度を迎えたWACCA塾は、現在、小学生13人、中学生24人と、ボランティアさんが27人参加しています。新拠点に移ってから、近隣学校や行政など他機関から気になるお母さん、もしくはお子さんについての情報が入り、そこから親子共にWACCAに繋がるというケースが、以前に比べて出てきました。多い曜日には小中学生が合わせて20人ぐらやってきて大変な日もありますが、引き続き他機関とも連携しながら、お母さんも含めて子どもたちを見守っていきたいと思います。

WACCA子ども基地へ
ようこそ!

私は長年DV被害で苦しみ、その間あちこちの公共機関や病院、団体などに相談に行きましたが、なかなか理解を得ることができずにいたのですが、WACCAはとても温かく接してくれ相談にも親身になっていただいた唯一の場所です。

当時の私にとって、ワッカの存在は救いであり、本当に有難かった。

その後、私は子どもを連れて家を出て、安全な生活を送ることができるようになったのも、ワッカの方々の助言や、心の支えはとても大きかったです。あのとき、逃げるができなければ、私や子どもたちはどうなっていたのだろうと考えると、今でもゾッとします。

本当にワッカがあってよかった、と感謝の気持ちしかありません。

あれから数年たち、私の生活も心も少し安定し、週一でボランティアとして今度は参加しています。お世話になったワッカさんに、何かできることがあれば、今度は支える側として何か出来ることがあれば、と思い参加させていただくことにしたのですが、ワッカのスタッフさんや、他のボランティアメンバーさんたちの温かさに触れ、今は心の拠り所として、居場所のようになっています。メンバーさんたちが大変な状況でも、明るく元気に、時々へこんだりしながらも、前向きにがんばっている姿に励まされたり、元気をもらったりもしています。

(Bさん)